

呼吸器系と循環器系
呼吸器系



呼吸器系の構造

呼吸器系は、酸素を体内に取り入れるための器官である。鼻や口から吸入した空気を、気管支を通じて肺まで運ぶ。肺では、血液と酸素の交換が行われる。また、二酸化炭素を体外に排出する役割も果たしている。

呼吸器系は、主に気管支と肺から構成される。気管支は、喉元から始まり、徐々に細く分岐していき、最終的に肺葉まで到達する。肺葉は、酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する場所である。

呼吸器系は、循環器系と密接に関連している。循環器系が、肺から全身へ酸素を運ぶ役割を担っている。逆に、全身から回収した二酸化炭素は、循環器系を通じて肺へ運ばれ、体外へ排出される。

呼吸器系の働き

呼吸器系は、体内の酸素レベルを一定に保つために働く。酸素不足の状態では、呼吸器系は、呼吸の深さを増やしたり、呼吸の速さを上げて、酸素の取り入れを促進する。また、二酸化炭素の濃度も一定に保つためにも重要な役割を果たしている。

